

# 平成20年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイントについて ～北海道（公立）における調査結果～（概要）

平成20年8月  
北海道教育委員会

## 調査の概要

平成20年4月22日（火）実施

### 調査内容

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ・教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題
- ・主として「知識」に関する問題と、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関する問題を出題
- また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

### 参加状況

- ・参加学校数 1,921校  
（札幌市を含む全道すべての市町村立学校及び道立特別支援学校）
- ・参加児童生徒数 93,636人

## 教科に関する調査の結果

教科に関する問題における平均正答率

単位（％）

	小学校国語A	小学校国語B	小学校算数A	小学校算数B	中学校国語A	中学校国語B	中学校数学A	中学校数学B
北海道(公立)	60.5 (79.4)	46.4 (58.0)	66.4 (76.8)	47.7 (58.6)	72.7 (80.5)	59.0 (70.0)	60.3 (68.6)	45.9 (57.6)
全国(公立)	65.4 (81.7)	50.5 (62.0)	72.2 (82.1)	51.6 (63.6)	73.6 (81.6)	60.8 (72.0)	63.1 (71.9)	49.2 (60.6)

（ ）内は昨年度の数値

## 教科に関する調査の結果

小学校、中学校共に、主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）及び主として「活用」（国語B、算数・数学B）に関する問題のいずれにおいても、平均正答数や平均正答率が、全国よりも低い傾向である。

平均正答率について、全国（公立）との差が小さくなった教科の問題（小算B、中国A、中国B、中数A）

平均正答率について、全国（公立）との差が大きくなった教科の問題（小国A、小国B、小算A、中数B）

## 質問紙調査の結果<児童生徒質問紙>

国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、昨年度よりも、小学校で若干低く、中学校では同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で同様の傾向、中学校で若干高い傾向。

算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、昨年度と小・中学校とも同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも同様の傾向。

1日当たりの児童生徒の学習時間は、昨年度と同様の傾向。1時間以上勉強する割合は、全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い傾向。

学校に行く前に持ち物を確認する児童生徒の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で同様の傾向、中学校で高い傾向。

自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で低い傾向、中学校では同様の傾向。

## 質問紙調査の結果<学校質問紙>

児童生徒が熱意をもって勉強していると思っている学校の割合は、昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも同様の傾向。

放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、小学校で昨年度と同様の傾向、中学校で昨年度よりも高い傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い傾向。

長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、昨年度よりも小学校で若干高く、中学校では高い傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い傾向。

国語、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、小学校で昨年度よりも若干高い傾向、中学校で昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、中数で若干低く、小国、小算、中国で低い傾向。